校長先生の初恋物語

第71話　なぜだ、ジャイアン！！！！！

ばけものきんに君は、ダンプさんの失敗をずいぶん取り返しましたが、それでもビリのままです。差はつまってきましたが、まだまだ追いついてはいません。この後は、ちゃんと走るか分からないジャイアン。そしてアンカーは足長君。いくらアンカーに、マンモス小で一番早い足長君がひかえていても、１組３組をぬかせるかどうかはわかりません。ジャイアンしだいです。ジャイアンが本気にならないと、夢の話です。

とっくんは、きんに君が向かっていく先の、次の走者ジャイアンを見ました。おどろきました。そこに、ジャイアンは、いないのです。

「ジャイアン、どこに行ったんだーーー。」

とっくんはさけびました。その声に気づいた、２組のみんなが、ジャイアンを目で探しました。ジャイアンがいました。とんでもないところにいました。ジャイアンは、さらにその先、１組、３組のアンカーといっしょにいました。

「どうしてジャイアンが、アンカーなの。アンカーは、足長君でしょ。」

足長君がとっくんに向かって、さけびました。

「ジャイアンと、ぼくは、走る場所をチェンジしたんだ。きんに君の次は、ぼくが走るよーー。」

「えーーっ。だめだよ。ジャイアンがアンカーだなんて。ジャイアンが、ちゃんと走るとは思えないよー。」

「とっくん、信じろ。ジャイアンを信じろ。ジャイアンだって、ミッタの仲間だろー。」

そう言い残すと、きんに君のバトンを受け取って、足長君は走って行きました。

足長君は、すごかった。本当にすごかった。ドッジボール対決で見せた、あの本気の足長君をはるかに超えた。さわやかでかっこいい、足長君は消えていた。ばけものきんに君を超える、スーパーばけもの足長君になっていた。

２組のために、みんなのために、きのこ君のために。失敗をしたダンプさんのために。こんな足長君は見たことがない。よしこさんのハートの目がなくなることも気にしない。とにかく、スーパーばけものになって、足長君は走った。

足長君はとっくんの恋のライバル。時々ブラックになることもあるけど、足長君がいたから、とっくんは強くなれた。だったら、足長君を信じるよ。足長君が信じる、ジャイアンのことを信じるよ。

「足長君ーー。がんばれーーー。足長君、ありがとうーーー。」

さあ、いよいよアンカーのジャイアンだ。ジャイアンは、いつもの感じで、足長君をまっていた。いっしょうけんめい走ってくれるか、まだ分からない。顔はまったくやる気ない感じ。大丈夫なのかーーー。　　つづく

次回　校長先生の初恋物語最終回